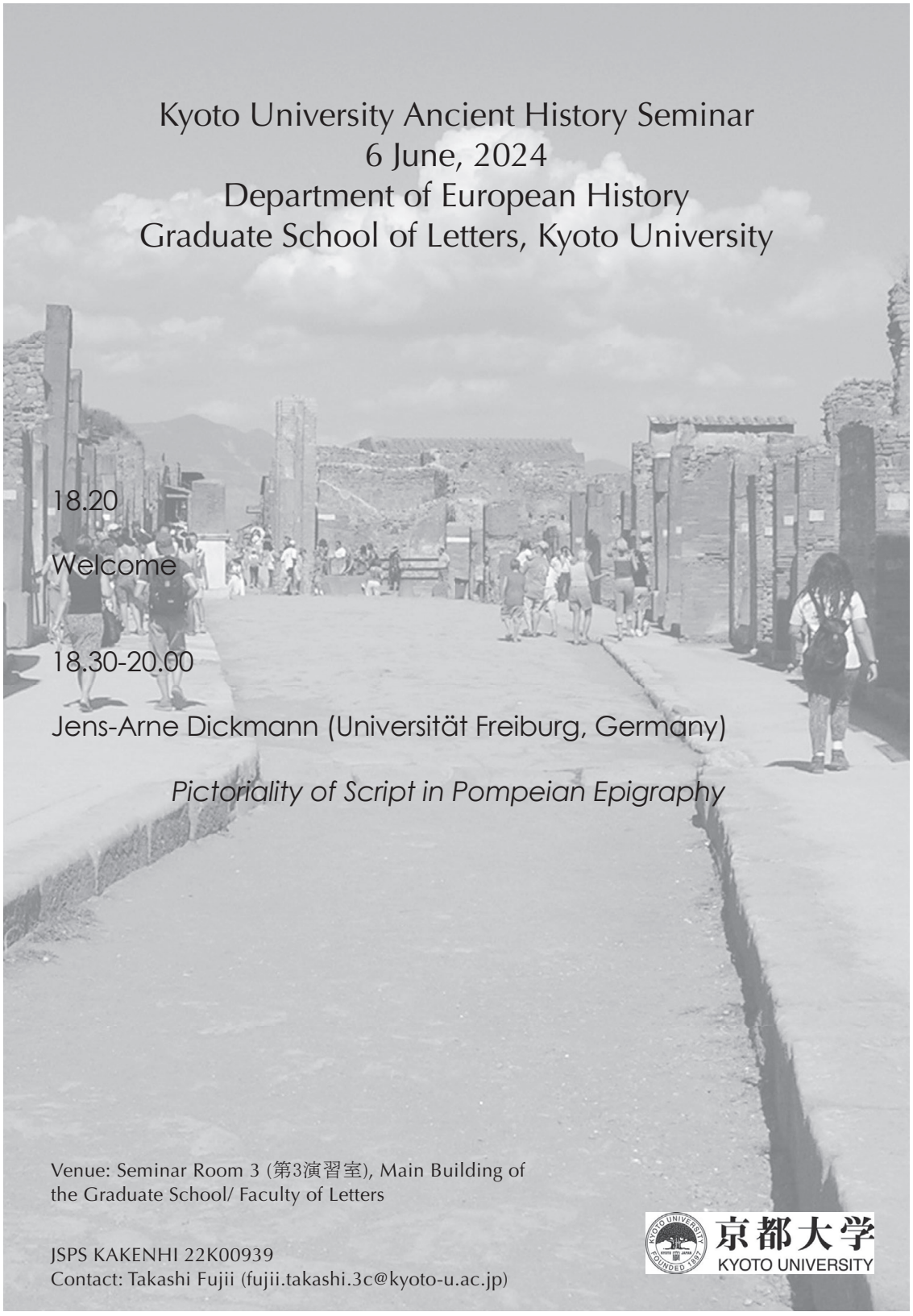
《活動報告》

Kyoto University Ancient History Seminar, 6 June, 2024

藤　井　　崇

この度のセミナーで講演されたドイツ南西部のフライブルク大学考古学研究所古典考古学部門（Institut für Archäologische Wissenschaften, Abteilung für Klassische Archäologie）のイェンス＝アルネ・ディックマン（Jens-Arne Dickmann）教授は、筆者が以前ドイツ・ハイデルベルク大学在籍時にお世話になった先生の一人だが、今回は、東京大学大学院人文社会系研究科の芳賀京子先生の招聘で来日された。ディックマン教授の専門はイタリア・ポンペイ遺跡で、その長年の研究成果の一端が Beck 社の Wissen シリーズの *Pompeji*（3. Auflage, 2017）として、一般にもわかりやすい形でまとめられている。

京都大学大学院文学研究科西洋史学専修を訪問されたディックマン教授は、本セミナーで、Pictoriality of Script in Pompeian Epigraphy と題された報告をおこなった。ポンペイの家屋壁体の漆喰にさまざまな種類の文書が書かれていることはよく知られているが、ディックマン教授は「トレビウス・ウァレンスの家」をケーススタディーとして、外壁に描かれた文書の年代、字の大きさと形、内容、配列を詳細に分析し、外壁文書がポンペイの社会史と経済史の解明に持つ意味を明らかにした。考古学・美術史と歴史学との共同作業の意義を痛感させられる、非常に興味深い報告だった。セミナー後は、京都大学近くの居酒屋で懇親会を開催し、活発な研究交流をおこなうことができた。


Kyoto University Ancient History Seminar
6 June, 2024
Department of European History
Graduate School of Letters, Kyoto University
18.20
Welcome
18.30-20.00
Jens-Arne Dickmann (Universität Freiburg, Germany)
Pictoriality of Script in Pompeian Epigraphy
Venue: Seminar Room 3 (第3演習室), Main Building of the Graduate School/ Faculty of Letters
JSPS KAKENHI 22K00939
Contact: Takashi Fujii (fujii.takashi.3c@kyoto-u.ac.jp)
京都大学
KYOTO UNIVERSITY